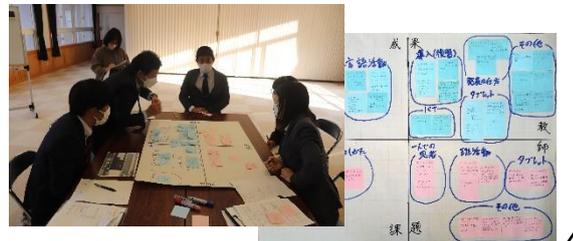
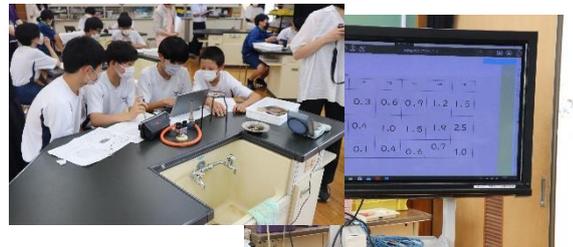


1. 実践研究テーマ

- ・ 根拠や理由を明らかにしながら自分の意見や考えを表現させる授業づくり
- ・ 1人1台端末の活用法について

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

- 全教職員による学習指導案検討会
 - ・ 全教職員によって学習指導案を検討する。この取組を通して、教科横断的な視点で気づきや疑問点についての意見交換を行う。
 - ・ ICTの効果的な活用方法について検討した。特に、根拠や理由を明確にして他者に伝えるためのツールとしての1人1台端末における活用方法を模索する。
- 徳島型メンター制度の活用と深化・発展
 - ・ 学級経営や授業の展開においては、ベテラン教員やミドルリーダーがメンターとなり、ICTの利活用においては、若手教員がメンターとなるなどして、相乗効果的に研修を進めている。
- ワークショップ型研修
 - ・ 協力校を交えた全教職員でのワークショップ型研修によって、成果と課題の共有を図った。また、課題解決の手立てについて検討・実践していくことにより、協働力を高めていく。
 - ・ ワークショップ型研修を進めていく過程で、異校種間での情報交換を行い、実践した方策における効果を検証する。



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- ・ 全教職員で、指導案の検討を行ったことにより、教科横断的な視点を取り入れた授業が展開できた。
- ・ 生徒に根拠や理由を明らかにしながら考えや意見を表現させるための、発問手法などのスキルが向上した。
- ・ 1人1台端末の活用頻度を高められたとともに、活用方法の幅を広げることができた。
- ・ 生徒の課題を改善するために、教職員間でアイデアを出し合い、話し合う姿が以前にも増して、見られるようになった。

○ 児童生徒の変容

- ・ 根拠や理由を明らかにした発表を重ねることにより、意見交換が以前よりも積極的にできるようになった。
- ・ 1人1台端末の活用頻度が高まったことにより、自分の思考を他者に伝えるツールとして定着してきた。
- ・ どのように表現したら、相手に伝わりやすいかということ意識するようになってきたと見受けられる。
- ・ 班活動において、意見交換しながら粘り強く課題解決に取り組む姿勢が見られる場面が増加した。